

きづがわ歴史探訪



南北朝に位置するこの地は、旧石器時代から人が住み、おあいの地でありながら、木津川とおとせ早く朝鮮半島などと交流がありました。古墳時代を越え、飛鳥・藤原・平家などの都への入口として、都と各地を結ぶ拠点の地として、その歴史と文化を育んでいきました。15世紀後半の北畠の乱と木津川合戦を鎮め、石仏や十三重塔、五輪塔を建て、石仏を彫って神仏の信仰の地としてきました。15世紀後半の北畠の乱は山城地域を戦場としましたが、地元の武士を中心に結束した人々は、軍事を止出し山城の自治を目指しました。これが山城国一度です。江戸時代、山城地域は豊富な産物で豊かになり、木津川盆地を利用して、農産物と飲料、平家などに積み出し、必需品の改良によって、お茶の栽培が盛んに広がり、幕末期以降、お茶を輸出し始めるようになります。明治時代になるとお茶と道路の交通網の整備が進み、木津川の交通の役割小さくなりました。最近では、京都・大阪・奈良のベッドタウンとして人口が増加するとともに、関西文化学術研究都市の建設が進められ、大きな発展を遂げていきます。

時代別	狩猟	新石器	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	明治
木津	大穴遺跡 (弥生土器)	奈良山店東部 (奈良山店東部)	奈良山店東部 (奈良山店東部)	安楽寺 (平安朝の遺跡)	木津遺跡五輪塔 (平安朝の遺跡)	青野山古墳群 (平安朝の遺跡)	西川山遺跡 (平安朝の遺跡)	大穴遺跡 (平安朝の遺跡)	
加茂	砂原山古墳群	岡田神社跡 (鎌倉時代)	浄徳寺 (鎌倉時代)	石佛小群 (鎌倉時代)	海山山古墳群 (鎌倉時代)	大原築城の痕跡石	テレーラ埋蔵品		
山城	湧出宮遺跡	平城山古墳群 (鎌倉時代)	鎌倉寺新田の築山 (鎌倉時代)	安楽寺 (鎌倉時代)	仁王寺 (高倉神社) (鎌倉時代)	神尊寺 (鎌倉時代)			

● 梅原山銅斧 (古大器遺跡)
 『梅原山銅斧』は、長さ約40cmの銅斧で、磨崖の岩壁に似て、身を6区に区分する。これは古大器遺跡で、弥生時代中期後半の磨崖式住居跡跡一方向溝溝などが発見され、銅斧を埋納した集落と判明しています。



● 榑井大塚山古墳 (古墳定史跡)
 古墳時代前期(三世紀後半)のなかでも古くに位置づけられる代表的な前方後円墳です。直径28m、古墳の西側を南北に走る国鉄湯山線(現存のJR新大阪線)の沿道地区に作られたために、都立1号墳が発見されました。発掘調査で、石室内から、榑山台宮の女王坐像の像とも呼ばれる「三角形神像鏡(さんかくがらしんじょうきょう)」三十面体を含む十面近い鏡類や多くの銅製品が出土し、全国的に大きな注目を集めました。

● 高倉寺跡 (古墳定史跡)
 7世紀前半(高倉時代)に建立された西内麻呂の寺跡の西のひつて、高倉寺の遺跡が発見されています。この場所からは、白土甕(びやくついで)や埴輪(はたがひん)の破片などが発見されています。「白土甕(びやくついで)」は天平年間(奈良時代)に存在したことが認められ、高倉(からん)は木津川を見下ろす台地上に南面して、西に金堂、東に塔を持つ法起寺式の配列となります。



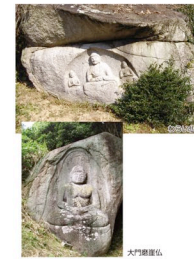
● 奈良時代の木津川 (当時北山川)の南岸のこの地には「東津川(いずみつ)とよばれるのがあり、平城宮や南都に大河の支分川(木津川(いずみつ)が流れていた。」と記述されている。現存しているのは、160m上の高倉に延びる溝、更に並列する溝、建物の跡や多くの遺物が出ています。

● 鏡割銅貨 (附古大器遺跡)
 『高倉寺(高倉時代)』に建立された西内麻呂の寺跡の西のひつて、高倉寺の遺跡が発見されています。この場所からは、白土甕(びやくついで)や埴輪(はたがひん)の破片などが発見されています。「白土甕(びやくついで)」は天平年間(奈良時代)に存在したことが認められ、高倉(からん)は木津川を見下ろす台地上に南面して、西に金堂、東に塔を持つ法起寺式の配列となります。



所に置かれた瓦は、数万枚ともいわれています。京都と奈良の境にある奈良山店遺跡は瓦に必要な粘土や腐植土に由来しており、瓦の一大産地となりました。そのうち約4割は瓦製鉄、約6割の発掘調査によって4基の瓦窯跡と数棟の竪柱式建物が検出され、瓦の文様から「法華寺阿弥陀土庫前」に由来していることが明らかになりました。木津川市では鹿野山瓦窯跡、市見瓦窯跡、樽谷瓦窯跡と併せて4つの瓦窯跡が、豊後瓦窯跡(奈良市)と併せて「奈良山店瓦窯跡」として国の史跡に指定されています。

● 亀の石仏 (古墳定史跡)
 (亀塚遺跡(木がぶつ)文化継承保存地域) 『美しい日本の歴史的風土100選』
 市内南部の田代川沿には、多くの石仏や石塔があることで知られています。特に平安時代から鎌倉時代の亀塚の境内には、鎌倉時代から室町時代にかけて、行き交う人々のために多くの石佛が造られました。石佛は、無類とされるお釈迦様の彫像が多く、石仏の造りにては、彫刻師の個性が強く現れています。



● 大穴遺跡 (古大器遺跡)
 約100年前に開通して、わずかな年数で廃止された鉄道の遺跡が残りしています。かつての築造に鉄道遺物やランパが埋まっています。

● 上粕の茶屋跡
 近郊では江戸時代から建てられた品物の茶の製茶と製茶が盛んで、結果には木津川の水源を利用して神戸に出出し、世界に輸出されていた。木津川の沿に近い山城町上粕南部には製茶工場や茶問屋が密集し、最盛時には120軒を数えたといわれています。現在も約40軒の茶問屋が軒を連ね、「茶問屋ストリート」と呼ばれる町並みが住跡の雰囲気を残しています。

● 不動川砂防歴史公園 (宇・宇野遺跡 (明治近代史跡))
 明治6年に政府の指令により来日したオランダ人測量員バネクス・デ・レーケは日本の治水事業の発展の基礎を築いた人物です。なかでも不動川に築かれた石橋の原型は現在でも大切に保存されています。

● 大井手水跡
 貞応元年(1222)南住山寺第二世住上には、低原の貞応が湧き出す湧き水を利用して、初祖川から水を引き大井手水跡の建設を計画し、二十余年の歳月を費やして完成させました。その延長は6.75kmに及び、このおかげでこの地域の稲作が大幅に増え、今も高倉一帯を潤しています。



● 土佐遺跡 (古大器遺跡)
 上粕遺跡とは、遺跡(大井手)とは、長径600m、短径300mの墳墓を祀る。これは、奈良時代のこの地を治めた高倉の土佐に開拓する遺跡と文化財があり、高倉の風景を生活することができている。

● 木津遺跡五輪塔 (鎌倉文化財)
 鎌倉時代、正長5年(1328)に建立された、高さ3.6m、花崗岩製の五輪塔です。遺跡とは、一般大衆のあいだに個人名が普及していなかった時代の葬儀の一形態であり、いわゆる共同墓地という意味でもあり、主に大穴・山城地区に分布しています。建立年代の明確な五輪塔として貴重なもので重要な文化財とされています。



● 不動川砂防歴史公園 (宇・宇野遺跡 (明治近代史跡))
 明治6年に政府の指令により来日したオランダ人測量員バネクス・デ・レーケは日本の治水事業の発展の基礎を築いた人物です。なかでも不動川に築かれた石橋の原型は現在でも大切に保存されています。

● 仁王墓 (高倉神社)
 高倉神社は、平安時代末期の白河院法皇の第三皇子に仁王(もちとお)を祀り、鎮西に仁王の御靈が降ります。平安朝末期に仁王(もちとお)を祀り、鎮西に仁王の御靈が降ります。平安朝末期に仁王(もちとお)を祀り、鎮西に仁王の御靈が降ります。



● 大穴遺跡 (古大器遺跡)
 約100年前に開通して、わずかな年数で廃止された鉄道の遺跡が残りしています。かつての築造に鉄道遺物やランパが埋まっています。



● 不動川砂防歴史公園 (宇・宇野遺跡 (明治近代史跡))
 明治6年に政府の指令により来日したオランダ人測量員バネクス・デ・レーケは日本の治水事業の発展の基礎を築いた人物です。なかでも不動川に築かれた石橋の原型は現在でも大切に保存されています。

きづがわ歴史探訪